

発行日 平成 25 年 8 月 13 日

# 「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」フォーラムニュース 64号

発行：「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」 広報委員会

〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-14-7 山形ビル3階

TEL 03 (3504) 9800 FAX 03(5157) 3180

E-Mail [csm-hq@eco-texj.co.jp](mailto:csm-hq@eco-texj.co.jp)

季夏の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

フォーラムニュース 64 号をお届けします。

---

## 7月11日、第57回研究フォーラムセミナーが開催されました

---

開催にあたり近藤事務局長より挨拶の後、参加の皆様から近況などご報告をいただきました。



続いて、(NPO)日本ファイバーリサイクル推進協会理事長・ファッションビジネス学会アパレル・リサイクル研究部会長の木田 豊氏をお招きし、「環境とファッション」(繊維産業の環境管理～私たちは可燃ごみの供給者?)と題して“期待されるファッションビジネスの役割と行動“について次のように講演をいただきました。



「今日はアパレル・リサイクルについて、現状及びあまり気づかれていないところの話を」と講演を始められました。その発想は、「繊維・アパレル業界の環境への次の動きを見つけていければ、再浮場の道を探れる」と同時に、「ファッションビジネスの役割と行動及びその解決策を見出したい」と強調。

近年に急激な人口増など環境変化を述べ、それに対応して、(NPO) ネットワー

ク「地球村」の考えを紹介されました。

それは、まず「できることから始めよう。輸入品の利用を減らしましょう（輸入は、相手国の環境破壊につながる場合が多い。例：コーヒー、タバコ、牛肉、エビ、バナナ、パイナップル、ナタデココなど）、「国産品、無農薬の農作物を買いましょう」、「大量消費、大量廃棄をやめましょう」、「少しでも自給できるようにしましょう」――など。

次いで、日本の繊維産業の環境管理について説明し、「日本は環境先進国であり、当然繊維も、と思うが」として繊維産業の取り組みについて疑問を投げかけている。

環境対策の1つの動きとしてタオル業界のユニークな話題として、今治タオルブランドの中で池内タオルの環境への取り組みを紹介。電力は皆風力。コットンはオーガニックコットン。排水処理にも尽力してきている。そうした取り組みに加えユニークなマーケティングを行っている。1つは風力発電。風力業界を支える「風で織るタオル」のネーミングが好評だ。

※使う電力は、自社工場内に風車を設けて回しているのではなく、電気は地元の四国電力から供給されるが、グリーン電力証書により、それが能代風力発電所の電力とみなされている。

※グリーン電力証書とは、風力、太陽光などの自然エネルギーで発電された電力を、企業や個人が利用できるシステム。

まだまだ低い繊維のリサイクルだが、こうした取り組みなどで、「消費者の産業を見る目が変わってくる」という。



さらに、アパレルのリサイクルの現状を中小企業基盤整備機構のデータを基に説明。ゴミになったものを、どのようしようかという取り組みが最近よく見られる。アパレル産業は、そこへ行く前にもう一役果たせ

るのでは。それが3R（リデュース＝発生抑制、リユース＝再使用、リサイクル＝再資源化）から2R（リデュース、リユース）重視の大きな流れであると指摘した。

最後に、リクチュールについて話を進めた。リクチュールとは、“捨てるに捨てるに捨てられないもの。まず、はじめにスニーカーの端切れを集めたプレタポルテメーカーの作品を紹介。裁断した端切れを三角形にして、パッチワークの技術を使ってのスーツだ。上下で20万円のスーツ。小売業の人はその作品を見て、「採用してもいいが、売れたら追加がききますか」。そういう既存の考えや流し方ではないものを作らねばいけないとの考えで取り組んでいると木田さんは繰り返して強調した。続いて、回収されたジーンズを使い、売るとしたら40万円程のカラーワイシャツをアピール。また、一昨年のベストジーンズで、タレントの若槻千夏さんが自身でリメイクし、ビーンズをあしらった商品を紹介。

3Rから2Rの流れで、その2Rに最も近いやり方であり、箆笥在庫をもう一度見直そうということで、改めてリクチュールの意味を紹介。“環境に負荷をかけないで、「端材や残反。古着（タンズ在庫を含む）、故繊維などの素材」を使用しリペア（補修し、さらに大切に長くもちいること）、リフォーム（自分の体型や機能、好み、流行に合わせて補正し、さらに大切に長くもちいること）、リメイク（異なるデザインや別の用途のものに作り直して、さらに大切に長くもちいること）の手法を用い、クリエイターの手によるクオリティの高い製品紹介及びその活動について説明した。

お直し業界については、日本の縫製工場などが厳しい状況にある中で、メイド・イン・ジャパンの基本になる作品技術が残っている。その技術やデザイナーのアイデアを使ってクオリティの高い製品を生み出す。そのためのリクチュール塾誕生の経緯やそれを運営するリクチュール委員会、リクチュール塾運営委員会及びリクチュール塾のカリキュラムの内容などを、リクチュールの概念と市場の確立を合わせながら説明した。



---

## 事務局よりのお知らせ

次回、第58回定例セミナーは9月12日木曜日14:30～を予定しております。

講演は「サステイナブル アパレル産業」（仮題）について

講師に株式会社 トム 代表取締役 柳田信之氏を予定しております。

以上